

は各々最高策戦を講じつゝあるなり。一方内務省は六日安井警保局事務官を足尾に派遣せり。當時之等三者が其立場よりの見解を窺ふに、

▽官憲側……足尾事件に對する官憲側の觀測は、之を極めて重大視せる感あり。即ち足尾の問題は決して區々たる労働條件改善に止まるものにあらず、名を條件の改善に籍れるも、眞意は産業民主主義を徹底せんとする左翼労働者の奮起にして、或る意味に於ては全國の労働階級が地を足尾に選びて資本家及企業家と戦を交へんとするものと見るべし、従つて足尾に於て若し組合側勝利を占めんか、そは革命的地歩に第一歩を占むるものならざるべからずと。

▽古河本社の見解……(四月九日東京朝日新聞所載) 足尾銅山の作業鑛夫は總數六千六百に達し、此内本山、通洞、小瀧の三山に働く労働者約四千名、他は精鍊工場、工作所其他に働いて居る。今回問題を起して居るのは本山通洞の二山で、小瀧と精鍊と工作には何の異狀もない。本山と通洞には約二千七百の労働者が居り、其内千餘の鑛夫總聯合會員が七日來怠業狀態で、他に罷業の宣傳をやつて居る、此結果は他の働かんとする鑛夫にまでも影響して居ることは事實で、生産額には確かに影響することであらう。然し乍ら會社の現況からすれば今日生産高を増す必要のないのみか、減じることが却て好ましい様な有様で、斯うして動搖のために直接損害を蒙るやうなことはない。今度噂されて居る誠首問題は若し會社が最も優秀な坑道だけ掘るとしたら立所に約千六百人程の坑夫が必要となる譯

であるが、會社は將來の利益のために依然三山の平均掘りをやつて行く方針であるから、今直ちに休山や誠首の計劃は立て、居らぬ。今回の騒ぎに對する處置の如き、また何とも決定して居らぬが今後の成行次第で會社としても相當の處置を執らねばならぬ」云々。

即ち古河足尾鑛業所は第一、全日本鑛夫總聯合會々員を二千と見積れること、第二、足尾銅山の鑛脈中、カジカと稱する鑛脈(所謂優秀なる坑道)よりの産銅は最近足尾全産銅の三分の二を占め居れるが所要探鑛夫僅に三百にして足り、其他の三分の一の産銅に千三百の探鑛夫を要する現狀にて、目下銅界稀有の不況時に際し採算漸く到れるは全くカジカ鑛のお蔭なり。故に古河としてはカジカ鑛のみを採掘する時は千三百の探鑛夫及附屬労働者を淘汰し得るも、將來のため各坑道の平均掘主義を付しつゝあり、されば現情の下に於ては多數の不要鑛夫ありと云い得ること、従て更に古河の意中を付度せば或は是を機會に誠首を斷行し、足尾に張れる労働組合の根を削ぐの結果を庶幾したりとも云い得べし、尙罷業の起るべき狀勢に就ては逐年の經驗あること、て、「組合は所詮持久の出来る筈はない」と稍多寡を括りし傾もありき。

▽總聯合會側……古河足尾鑛業所が休山を斷行し得ざるを見抜き、労働者の結束を堅くして迫らば、遂に相當の接衝點を發見し得べく、之がためには嚴に激情的行動を戒め、正面よりチリ／＼迫ること、搦め手よりは社會に對し古河の面目に困惑せしむる手段を執る等の方針なりしが如し。